

ローマの Clementia

八戸高専 物質工学科 教授 佐々木 有

国際学会でヨーロッパに行って現地の研究者と一杯飲みながら話をすると彼らの心のなかのローマ帝国の存在感の大きさに驚きます。ルーマニアの先生曰く「私たちはローマ人だ」(ルーマニアという国名がローマ人の国を意味するらしい)、UKの先生曰く「イングランド史はカエサルに始まる」、フランスの先生曰く「プロバンスの名はローマ帝国時代のプロヴィンキア (Provincia、属州) からきている」。オーストリアの先生曰く「ウィーンは神聖ローマ皇帝のお膝元だ」。いずれにも共通するのは、彼らの国が2000年前のローマ帝国の一員であったことを誇りに思っている姿です。ローマ帝国亡き後、ドイツは神聖ローマ帝国としてローマ帝国の後継を名乗っています。EUは形を変えた現代のローマ帝国といえるでしょう。なぜ、ローマ帝国は現代のヨーロッパの心の中に生きているのか。ローマをローマたらしめたものこそすべての民族、宗教を包容する「ローマのClementia (寛容)」の精神です。このClementiaの精神こそ現代の我々が学ぶべきものです。Clementiaの精神の喪失とともにローマ帝国が衰亡していく中で、Clementiaを守る最後の努力をした皇帝が背教者といわれるユリアヌス帝です。西欧部分を失ったローマ帝国はギリシャ正教を国教とする(東)ローマ帝国として中世を生き延び、ユスティニアヌス帝のときに一時西欧部分を回復するものの、既にClementiaの精神を失っていた(東)ローマ帝国は回復した西欧部分を長く包容できず、やがて、ギリシャ正教、カトリック、イスラム教の三つどもえの抗争の中で滅亡します。西欧ではClementiaの精神をもった神聖ローマ皇帝フリードリッヒ2世を先駆けとして、ギリシャ・ローマへの回帰といえるルネサンス運動がおきます。民族間、宗教間の抗争が続く現代だからこそ「ローマのClementia」の精神は今なお輝きを失っていません。

ローマ人の物語 〈1～15〉

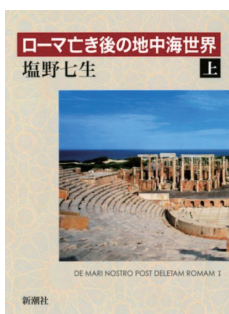
塩野七生



(1) ローマ建国から、王政、共和制成立を経てイタリア統一まで (2) 共和制ローマ最初の危機、カルタゴの名将ハンニバルとの死闘 (3) ポエニ戦役に勝ち抜いたローマ共和制の変質が帝政への道を開く (4) ガリア征服をクライマックスとするユリウス・カエサルの前半生 (5) 共和制ローマを帝政へと進めたユリウス・カエサルの後半生 (6) カエサルの偉業を引き継ぎ、帝政を確立した初代皇帝アウグストゥス帝によるローマ改革 (7) 皇帝アウグストゥス帝以降、ネロ帝に至るユリウス・クラウディウス朝の皇帝たち (8) ネロ帝の後の諸帝乱立による混乱の時代を克服して全盛に向かう (9) 諸帝乱立の混乱の時代を克服して全盛に向かう (10) 今なおヨーロッパ各地に残るローマのインフラ (11) 賢帝の世紀が終わり、安全保障を担ったローマ軍団の変質とともに帝政の衰退が始まる (12) 軍人皇帝乱立による混乱の時代、ハドリアヌス帝の時代に完備した安全保障が機能しなくなるとともに、異民族の流入が激化し、Clementiaが次第に失われていく (13) 帝国建て直しの最後の努力とも言えるデオクレティアヌス帝による帝国4分割統治 (14) コンスタンティヌス帝によるキリスト教公認、多神教のローマが一神教のキリスト教のローマに変容し中世の足音がきこえてくる (15) 民族大移動の嵐の中で、帝国西部を管轄する皇帝が不在となり(いわゆる西ローマ帝国滅亡)、帝国東部(東ローマ帝国)はキリスト教国家へ変容しClementiaが失われる。

ローマ亡き後の地中海世界 〈上・下〉

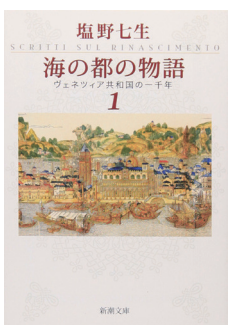
塩野七生



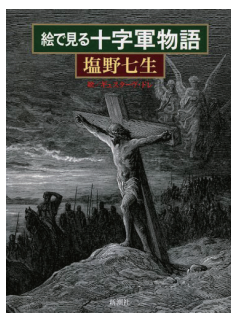
ローマによる安全保障が失われた時代のヨーロッパと地中海対岸のアフリカのイスラム勢力との間のせめぎ合い。

海の都の物語 〈1～6〉

塩野七生



ローマ帝国末期から近代まで生き延びた通称都市国家ベネチアの盛衰



絵で見る十字軍物語、十字軍物語〈1～3〉

塩野七生

キリスト教世界とイスラム教世界の正面衝突



皇帝フリードリッヒ二世の生涯〈上・下〉

塩野七生

ルネサンスを先駆けた神聖ローマ皇帝フリードリヒ二世の生涯を描く



ギリシア人の物語〈I～III〉

塩野七生

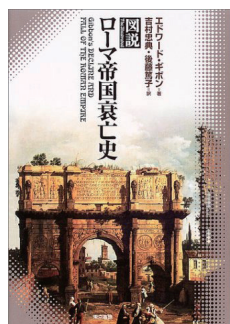
ローマに先駆けたギリシャ、アテネの民主制成立とリュクルゴスによる特異なスパルタの成立からペルシャ戦争



背教者ユリアヌス

辻邦生

ローマの Clementia を守ろうと最後の努力をした背教者といわれるユリアヌス帝の生涯を描く



図説ローマ帝国衰亡史

古代ローマ建国から1453年の(東)ローマ帝国滅亡までを描いたギボンの名著ローマ帝国衰亡史の抄訳

八戸工業高等専門学校
物質工学科 教授

佐々木 有

大阪府門真市で育つ、関西学院大学大学院理学研究科卒、理学博士、専門は毒性学、財団法人残留農薬研究所研究員、ファイザー製薬株式会社新薬開発センター研究員を経て八戸工業高等専門学校物質工学科教授、内閣府食品安全委員会農薬専門調査会専門委員、姫路獨協大学薬学部客員教授を兼任。



八戸ブックセンター
HACHINOHE BOOK CENTER

〒031-0033 青森県八戸市六日町 16-2 Garden Terrace 1F
TEL 0178-20-8368 FAX 0178-20-8218 web <https://8book.jp/>